

事例3-3

取組名	従来の「参集型」にこだわらない、町会行事の柔軟な見直し		
町会名	きたどいじりまち 北土井尻町町会（中央地区）	町会 データ	・人口／73人 ・世帯数／42世帯 ・高齢化率／45.2% ・町会加入数／48世帯 ・隣組数／10組
取組概要	○ 参加者の減少・固定化が続いていた町会行事（会食会）を見直し、加入全戸への配食を実施		

背景・課題

- ・ 当町会では、住民同士の交流を目的として、毎年1回会食会を開催していたが、参加者が固定化し、毎回同じ顔ぶれとなっていた。
- ・ また、近年住民の高齢化が進み、外出が難しい世帯も増加。会食会に参加しない世帯の中には、町会活動の内容が十分に伝わっていない状況もあった。
- ・ 町会費は全戸が負担しているにもかかわらず、参加できる人・できない人がいることで、不公平感が生じていたため、すべての加入世帯に恩恵のある事業への転換が求められていた。

経過・取組内容

- ・ 限られた人のための行事ではなく、「全戸に行き届く取組み」とするため、役員会において会食会の見直しを検討
- ・ 検討の結果、会食会は廃止し、代わりに加入全戸へ「栗おこわ」を配食することとした。
- ・ 実施にあたっては、役割分担を明確にし、役員の負担が一部に偏らないよう留意した。

（役員の役割分担）

- ①町会長：会場の手配、案内通知の作成・配布
- ②厚生部（2名）：栗おこわの手配、数量確認
- ③隣組長：栗おこわの受取り・各世帯への配布
- ・ 隣組単位の配布としたことで、既存の組織体制を活かし、効率的に全戸へ届けることができた。

- ・ 配布時には、町会からのメッセージや活動の紹介も併せて伝えた。

成果・今後の展望等

- ・ 加入全戸へ配布することで、事業による恩恵がすべての世帯に還元され、不公平感の解消につながった。
- ・ 配食を通じて、隣組長と各世帯との接点が生まれ、地域内の緩やかなつながりの維持にも寄与した。
- ・ これまで会食会に参加できなかった世帯にも町会活動を届けることができ、「町会が自分たちのために活動している」という実感を持ってもらう機会となった。
- ・ 役員の役割分担を明確にしたことで、無理なく実施することができた。
- ・ 今後も、公平性のある町会運営を意識しながら、町会の実情に合った取組みを検討していく。
- ・ なお、会食会に代わる住民同士の交流行事については、総会後の懇親会や町内一斉清掃など、既存の行事を充実させていきたい。

【ポイント】

- ▼ 公平性を意識した行事の開催
- ▼ 加入全世帯への町会活動の周知